日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	舞踊Ⅱ

開設学科	声優・演劇科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	40時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	浴衣一式、扇子、手ぬぐい				

担当教員情報

担当教員	花ノ本寿・花ノ本寿美佳	実務経験の有無・職種	有・舞踊家

学習目的

学生は舞踊Ⅰの授業を通して日本舞踊のあらゆる要素を勉強することで演劇にどう関わってくるかを理解し、実践してきた。舞踊Ⅱはそれの成果を発表することを大きな目標として、頭で理解してきたことを自分の肉体を通して何の補助もなく人前で表現するスキルを身に付ける。練習でできていても実際本番になると、補助となる見本がないことや物理的な空間が違うこと、人が見ているという精神的プレッシャー等により力をすべて出し切るのは難しい。この授業では、練習以上のことは本番ではできないことと、本番で１００％のものを見せるためには練習で１２０％以上できることが必要、という考えのもと指導し、一度の本番のためにその何倍もの準備が必要ということを身をもって知る。

到達目標

芸能は全てそうであるが、日本の伝統芸能も一筋縄ではいかないものが多い。四月から勉強して積み重ねてきた事だけが本番で表出する。短時間に習得したものは顕れない。成果発表の時期には、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊すべてが鑑賞に耐えうるレベルに到達したい。また、この授業を通して技能・知識だけでなく、集団での協調性や助け合う気持ち、伝統を重んじる心や謙虚な姿勢なども習得する。

教育方法等

授業概要	舞踊Ⅰの授業でインプットしてきたものを、アウトプットする行程に切り替えていく。具体的には、成果発表時のキャスティングやフォーメーションでの実習（入退場なども含む）、実寸（床にバミリなどで個人個人の立ち位置や入退場を示す）での稽古、実際の曲順での反復などを中心とする。別に、着付け・礼儀作法・扇子の扱い・舞踊も鑑賞に耐えうるレベルに到達するまで細かくセクションごとに稽古する。
注意点	舞踊Ⅰ同様に、この授業独特の挨拶の仕方や設定されたルールは遂行し、さらに成果発表に向けて個人プレーではなく集団プレーであることを認識する。一人の行動で大勢に迷惑のかかることのないよう注意を配る。また、授業時数の４分の３以上出席しない者は定期試験を受験することができない。授業計画は成果発表の仕様・状況により、一部流動的となる。

評価方法	種別	割合	備　　考
	試験・課題	80%	成果発表を含め、礼儀作法、着付け、踊りなどすべてを総合的に評価する
	平常点	20%	試験の評価の補助的な意味合い

授業計画（１回～１０回）

回	授業内容	各回の到達目標
１回	成果発表に向けた稽古	キャスティングやフォーメーション通りに動けるようにする。すり足を徹底する。
２回	成果発表に向けた稽古	キャスティングやフォーメーション通りに、バミリに合わせて動けるようにする。すり足を徹底する。
３回	成果発表に向けた稽古	成果発表通りの音源で立ち位置・移動も確認し、礼儀作法や舞踊・着付けの精度を上げる。
４回	成果発表に向けた稽古	全て成果発表通りの段取り、精度を上げる。周りの人の事も見えるようにする。
５回	成果発表に向けた稽古	全て成果発表通りの段取り、精度を上げる。全体の流れ、全体の一部であることをしっかり理解。
６回	舞踊稽古・科白（せりふ）・立回り	成果発表の曲の続き、または別の曲を稽古。科白・立回りの稽古。
７回	舞踊稽古・科白・立回り・襷掛け	男踊り、女踊りの稽古を進めていく。科白・立回りの稽古。襷（たすき）掛け。
８回	舞踊稽古・科白・立回り・手拭い	男踊り、女踊りの稽古を進めていく。科白・立回りの稽古。襷掛け。手拭いを使ったしぐさ。
９回	舞踊稽古・科白・足拍子・すり足	一年間勉強したことを、末永く忘れないように反復。
１０回	後期試験	一年間の集大成。